



①1号 2021年度賃金引き上げ等 第2回団体交渉を行う！②

6,000円のベースアップを強く要求する！

組合の主張

安定した経営のためにたゆまぬ努力をしてきている！

「変革 2021」を担うことを通じて労働力を高め、生産性向上に向き合ってきた！

- 医療職場では、PCR 検査を行うようになり防護服を着て汗をかきながら対応している。院内感染・クラスターを発生させることなく最前線で担っている。社員の健康管理のみならず、地域医療の役割を果たすべく日々奮闘している。
- 職場におけるコストダウンの取り組みは、知恵を出し合い行っている。増収の取り組みも、マスクや消毒液などをグループ会社で購入するなど、議論を積み重ねて実践している。
- 営業職場では、お客さまへ除菌シートの配布や、窓口・券売機等の消毒や清掃を行っている。駅構内でポスターを貼りだし、安心してご利用いただけることを訴えている。お客さまが減少する中でも、大人の休日倶楽部加入窓口の設置や駅の利用促進に奮闘している。
- 2月13日の地震発生後、お客さま案内や早期復旧を目指して各系統の組合員が取り組んだ。仙台の設備職場では、復旧の現場から職場に戻る途中で、急遽発生した事象への対応をするなどの奮闘がある。東日本大震災の経験を活かした対応であり、経験を積み重ねてきたからこそだ。
- 今シーズンは、昨年と比較にならない大雪であった。雪害によって12時間以上車内で列車看視を行ったり、雪のため駅間途中で停車しないように、乗務員から指令に情報提供するなど、安全・安定輸送の確保に努めてきた。
- メンテナンス職場ではCBMを導入して以降、定着に向けて尽力してきた。これまで以上に生産性向上に向き合ってきた。
- 3両編成以上のワンマン運転が拡大されている中、働き方も変化せざるを得ないことへの不安があるが、施策に向き合い努力し、労働力の価値を高めている。
- 2020年12月時点でコストダウンの実績単体で755億円と言われている。コストダウンに向けた職場の努力を評価すべき。

組合の主張

期末手当の減少で年収が10%下がっている厳しい生活実感の中での

コロナ対応や、モチベーションの向上のために賃金引き上げを強く求める！

- 年収を踏まえて住宅ローンなどを組んでいる。コロナ禍で生活様式の変化もあり、光熱費の増加もあり、将来のライフプランを立てることができない。
- 施策を担い頑張っているが、頑張りが形に現れないことからモチベーションが保てない。賃金面での魅力もなく、長期間この会社で働こうと思えなくなり、入社10年未満の社員が多く離職しているという現場からの声がある。
- 日勤者は生活様式の変化に大きく影響を受けており、自宅におけるテレワークの環境整備など、それぞれが行っている状況であることを受け止めるべきだ。
- エルダー組合員は、基本賃金が現職時の半分以下であり、コロナ禍も相まって生活は楽ではない。しかし、現場では現職と変わらずに業務し、施策を共に担っている。